

～～第7744回～～

針ノ木～蓮華岳

～H27.9.4-6～

9月4日（金）安倍川駅前5:00出発。新東名が使えるようになって長野が近くなった。扇沢の駐車場に9:10に着いた。天気は青空が一部にあるが雨雲も峰にかかるような、安心できない天気だ。ザックにカバーを付けて出発。湿度が高くて蒸し暑い。樹林の中の登攀で周りの景色も見えない。1時間ほど登るとケルンに達し、ここからようやく周りの景色が楽しめるようになる。心配した天気はだんだん良い方に向かい、日差しが雲の間から射すようになる、20分程で駅見岬、ここからは出発した扇沢が見下ろせる。周りが見えると登る苦しみが和らぐ。水平道の途中で昼食を摂る。水平道を過ぎ、石ベンチを過ぎるといよいよ種池山荘の登りだ。道は水平からジグザグに折り返しながらダケカンバの中を上り詰める。ダケカンバを抜けると草原、そして緩やかになるとガスの中から種池山荘が目に入る。ほぼコースタイムで小屋に着いた。小屋の入り口にある鐘を鳴らす。小屋の宿泊客は多くはなく、ゆったりと蒲団がもらえた。

コースタイム：安倍川駅前 500…登山口 935…ケルン 1049…駅見岬 1110…水平道 1220…石ベンチ 1230…種池山荘 1330

記録：静岡西 S, F

9月5日（土）晴れ風無し。5時朝食。入念のストレッチ後50分出発。天空の花畑の中に行く。リンドウ、ウスユキソウ、トリカブト、キリンソウなど咲いている。周りを見れば鹿島槍、五龍、白馬、剣立山、遠く富士山、北岳が見える。岩小屋沢岳を経て新越山荘で休憩、トイレを借りる。快適だったコースも鳴沢岳を過ぎ赤沢岳が近づいて来ると岩稜、ガレ場で歩き辛くなる。落石しないよう慎重に進む。赤沢岳で昼食。大パノラマを堪能しながら30分程休憩。赤沢岳の山頂から鞍部へ一気に下りスバリ岳を登り返すのは足場も悪く大変でした。長野県側からガスが上がって来るが稜線を超えず富山県側の視界は良い。黒部湖を眼下に見ながら歩く。針ノ木岳14時到着。山頂は静かな佇まいです。縦走して来た満足感で見渡す景色は只々素晴らしい、の一言です。山頂から40分下降してチングルマが一面に出てくると針ノ木小屋に。15時予定通りの到着。小屋は清潔でスタッフも親切。食事美味しく、とても良い小屋です。最高の稜線歩きの一日。天候に仲間に感謝です。

コースタイム：種池山荘 550…小岩屋沢岳 725…新越山荘 810…鳴沢岳 915…赤沢岳 1030…スバリ岳 1300…針ノ木岳 1400…針ノ木小屋 1500

記録：静岡西 池ヶ谷

9月6日（日）針ノ木小屋の朝食5:30と種池山荘より30分遅い。天気は曇り。周りの山が見え、しかも天気予報は午前中持ちそうだ。食事を終えて出発準備していると雨が窓を打つ音に、思わずため息が出る。しかし雨具をつけて外に出て、10分程で雨は弱まり出発時には防寒着にして登る。雲が高い空にあって、昨日歩いた峰々がよく見える。南には槍ヶ岳も見える。青空は無いがまずまずの天気だ。小屋の前の尾根を東に一気に登り、ゆ

ったりした尾根を 30 分程で蓮華岳(2799m)に着いた。途中コマクサはもう遅いが、ところどころにやっと咲き残った花がみつかった。砂礫の中に点々とコマクサ特有の葉っぱが広がり群落の様子は想像できた。頂上では 360 度の景色は楽しめた。風が強く雨具が防寒着として脱げない。10 分ほど景色を楽しみ針ノ木小屋に戻る。この間雨粒はなく、上々の往復工程となる。針ノ木小屋にもどり、預けておいたザックを受け取り、下山開始。小屋から雪渓に向けて急こう配の下りとなる。この時期なので雪渓の上部まで 1 時間 20 分ほど夏道だった。いよいよそこからアイゼンを付けて雪渓を慎重に下る。雪渓の方がアイゼンを着けるとむしろ歩きやすい。40 分程で雪渓は終わりそこから沢の左岸の急な斜面をトラバースするように渡る。このころから雨が降り出す。あと 2 時間待つて欲しいところだが容赦ない雨粒が雨具をたたく。足場の悪い斜面を乗り切りやっと大沢小屋に着いた。休憩、エネルギーの補給をやって、ここからは路もしっかりしてようやく安心して歩けた。そのうち車道にでて再び登山道この繰返しを何度かやって扇沢に着く。雨が強くバス乗り場の待合場で着替えをしてマイカーで出発。じめじめした不快感を大町の温泉でさっぱりして静岡に帰る。

コースタイム：針ノ木小屋 600…蓮華岳 710-20…針ノ木小屋 815-40…雪渓上部 950……雪渓下部 1040…大沢小屋 1130…扇沢 1230＝大町温泉＝安倍川駅前

記録：静岡西 S, F



赤沢岳からの劔岳



新越山荘からの針ノ木岳